

十二支



昔、神様が動物を拾えた頃のお話です。

ある年の暮れ、神様は動物たちを集めて言いました。

「一月一日の朝、御殿に来なさい。」

一番目から十二番目の者に、一年ずつその年を守ってもらうことにする。」

その日から、動物たちは

一月一日を楽しみに待ちました。

拾えた

ついでに

御殿

神様



牛は、前の晩から、ごそごそ支度を始めました。

「僕は歩くのが遅いから、今から行けば丁度いい。」
それを聞いた鼠は、こっそり牛の背中に飛び乗りました。

牛は、のっそり、のっそりと

夜道を歩き、御殿に着きました。

朝になり、門が開くと

牛より先に鼠がちゃっかり

飛び込みました。

「やったー、一番乗りだ！」

牛は二番になってしまいました。が、
それでも嬉しそうでした。

牛

僕 支度

鼠